

I 実践

1 研究主題

児童一人一人がお互いの「人権」を尊重し、より良い学校づくりを目指すことのできる児童の育成

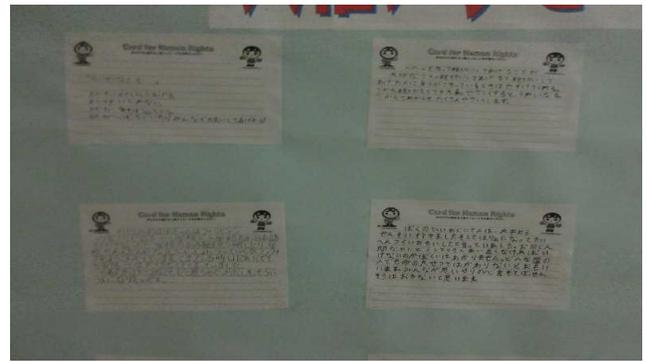
2 主題設定の理由

本校は、「元気に 楽しく 学び合う児童の育成」を教育目標とし、「かしこく・なかよく・たくましく」を三つの柱として教育活動を行っている。元気に楽しく学び合う、という目標を達成するためには、児童一人一人がお互いの人権を尊重し合う必要がある。児童が助け合いながら、児童にとってより良い学校作りを目指すことで、元気に楽しく学校に登校し、学びに打ち込めると考え、本主題を設定した。

3 実践内容

(1) 人権メッセージ

各学級において、一人一人、人権メッセージを考えるようにした。「人権」という言葉を聞いたことはあるが、一体どんな意味を持つのか分からない児童も多い。そこで、普段の道徳の授業を中心に人権についての理解を深めた。自分の今までの経験や、困っている人、いじめられている人を見かけたときどうしたいのかを、人権メッセージコーナーを児童全員の目につくよう放送室の前に掲示し、人権意識の啓発をした。「楽しいという言葉は、自然と笑顔になっていると思います。」「毎日の何気ないあいさつが毎日を元気にしてくれます。」と明るいメッセージも見られた。児童全員の目につくよう放送室の前に掲示し、人権意識の啓発をした。



人権メッセージ集

(2) 人権教育強調月間の実施

ア あいさつ運動の実施

あいさつの習慣を身につけることを目的に、運営委員会やボランティア委員会を中心に朝のあいさつ運動を昨年引き続き実施した。担当の児童及び教員は校門や玄関前に並び、登校してくる児童にあいさつをしたり、中学校と連携して、十王駅で地域の方々にあいさつをした。あいさつ運動を通して、目を見てあいさつできる児童が増えてきた。高学年の大きな挨拶で、普段おとなしい児童も次第に大きな声であいさつができるようになってきており、あいさつに対する意識づけをすることができた。



あいさつ運動の様子

## イ いじめゼロ集会（人権集会）の実施

昨年に引き続き、運営委員の児童が主体となって行った。今年度は、運営委員で「いじめについてのクイズ」と「いじめについてのビデオ」を放送した。このビデオは、企画・制作を児童が中心になって行い、「いじめられている生徒目線」のビデオとなっている。「靴を隠された児童」のリアルな映像を見て、次第に児童たちは引きつけられていき、真剣なまなざしで映像を見つめていた。また、「いじめについてのクイズ」では、「いじめとは」という基本的なことを説明したり、いじめについてのわかりやすいクイズをスライドを通して行ったりすることで、低学年でもわかりやすい内容になり、いじめについての理解を深めることができた。



いじめゼロ集会の様子

## (3) なかよしタイム（異学年交流）

上級生と下級生と一緒に外遊びをする時間で、以前から本校が継続に行っている取り組みである。上級生が遊びを企画し、下級生に対しルールや遊び方を優しく丁寧に説明していた。普段なかなか交流できない児童たちはこの時間をとても楽しみにしている。いつもみんなが笑顔で遊びを楽しみにしている。特に一年生はなかよしタイムをきっかけに異学年交流がより深まっている。



なかよしタイムの様子

## 4 成果

人権メッセージでは、文字に自分の思いを表すことで人権への関心を高めることができた。また、いじめゼロ集会や仲良しタイムなど児童が主体となった人権教育を進めることで、児童たちに優しさ・思いやり・助け合い・認め合いなど「人権」に対する理解を深めることができた結果、困っている友達や下級生を優しく助けてあげたりする場面が多く見られた。櫛形小学校をより良い学校にするために、そして気持ちよく学校生活が過ごせるよう、児童一人一人がお互いの「人権」を尊重する心が芽生えてきたのではないかと考える。

## II 今後の課題

児童たちが「人権」について考えなければいけないのは、集会を行ったときだけではない。常に意識していかなければならない大切なことである。故に、人権教育は日々の生活や教育活動を通して継続して行っていく必要がある。そうした小さな積み重ねから、児童たちが自然とお互いの「人権」を尊重し合えるような学校を目指し、教師一同が一丸となって人権教育に取り組んでいきたい。